

震災後の磐梯と遠藤現夢

私たちは震災後にここ福島に学習にきました。今回の震災がどのように五色沼に影響しているのか学習してることができました。

- ・五色沼の一部や檜原湖の湖岸などで土砂崩れが起こった。

今回の地震の影響は細かいことを言えばたくさんありますが、大きく目でわかる被害はやはり土砂崩れです。1964年の新潟地震でも五色沼周辺で多くの崩壊地ができ、ここに陽樹のアカマツが侵入して今では樹齢40年ほどのアカマツ林となっているそうです。だから今回の震災でもそういうことがおこるのではと、私は思います。この写真は五色沼のコースを歩いている時よく見かけた木です。写真を見てみるとわかるように、この木々の特徴は3本一緒に生えているところです。これらの木々は1910年頃から遠藤現夢らが植えた10万本以上のアカマツや杉です。しかし雪が多いこの地では、1本ずつ植えていくと成長する確率が少なくなってしまうので、遠藤現夢の工夫で2、3本一緒に植えることでしっかり木々が成長できるようにしたそうです。遠藤現夢はこのようなことをして森林経営をめざしたそうです。

今回このコースを歩き印象に残った沼があります。それは1つの沼なのに、場所によって異なっている沼です。理由は流れてくる途中で性質の違う水が混ざるからだそうです。そのほか季節によって水温が変化し沼の水が上下で混ざり色が変化することもあるそうです。今回の自然体験学習では曇りのときは緑っぽかった沼の色が、太陽が出た時に、黄色っぽく変化する瞬間を実際に見ることができました。五色沼のコースを実際に歩き、噴火後のすばらしい自然にとっても感動しました。この築き上げた自然を保ってほしいと思います。

五色沼とその周辺の植物

私は自然体験学習1日目、たくさんの沼を見ました。どんな沼にもそれぞれの特徴がありました。まず初めに見た沼は毘沙門沼です。特徴としては五色沼でいちばん大きい沼で、他の沼に比べて酸性度が低いことです。私が見た時は左の写真のような濃い深緑色をしていました。

沼の周辺では、シロヤナギやヤマナラシなどが多く発育しているそうです。そして私たちは毘沙門沼を見たあともいろいろな沼を見ました。印象に残っているのは深泥沼です。

この沼は場所によって色が違ってとても特徴的な沼でおもしろかったです。西側は青紫色ににごり、フトヒルムシロの群落が広がっています。それに対して東側は澄んでいてオヒルムシロがしげっています。1つの沼で水質と生物相が異なっている沼です。

今の2つの沼と竜沼は湖底にコケのマットが発達せず、フサモとフトヒルムシロの群落が特徴的な沼です。そして瑠璃沼、青沼、弁天沼この3つの沼にも共通点があり、とても特徴的な沼です。

まずは青沼です。青沼の沼水は多量のカルシウムと硫酸イオンを含み、とても透明です。水面上からみる湖底はウカミカマゴケのマットでおおわれています。瑠璃沼の沼水は青沼と同じように多量のカルシウムと硫酸イオン含み青く澄んだ美しい沼です。湖底をウカミカマゴケのマットが埋め尽くしています。

3つ目の沼は弁天沼です。この沼の特徴は、沼の西側の湖底にはウカミカマゴケのマットが広がり、東側では、フトヒルムシロの群落があります。1つの沼で水質と生物相が異なっている沼の1つです。この3つの沼は銅沼系湖沼と呼ばれています。湖水は多量のカルシウムと硫酸イオンを含み、青く澄んだ美しい沼です。この3つの沼の湖底には、ウカミカマゴケやホリバスギゴケが繁茂し、瑠璃沼では大きいもので直径10cm、高さ5mにも及ぶコケのマットが作られ湖底を埋め尽くしています。これは非常に珍しい貴重なものだそうです。

このコースでは沼だけでなく変わった植物もありました。この左の写真の植物は花ではなく葉っぱです。しかし蜜があるので動物になるべく食べてもらえるように花みたいに形を工夫している植物です。またそれは植物だけでなく生き物も同じことです。例えばこのコースで見た、エゾゼミもまた形や色が植物になじんでいてどこにいるのかわからなくらいうまくかくれていました。これは天敵から身を守るためだといえます。そして左の写真のきのこは毒キノコです。毒がとても強くて1本で2人が死んでしまうほどだそうです。五色沼周辺にはこのような植物もあって驚きました。

動物の痕跡について

2日目は横田清美先生のコースで主に動物の痕跡や植物について学びました。例えば左の写真はリスの痕跡です。この食痕の特徴はくるみを2つに割り、爪で中の実をくりぬいて食べているところです。写真にもしっかり爪の跡が残っているのが目で見てわかります。次は日本リスの食痕です。日本リスの食痕の特徴はアカマツの芯だけを残して食べているため形が海老フライみたいな形になっているところです。森の中には、このような痕跡を



撮影：H.S.

たくさん見つけることができました。痕跡は食痕だけではありませんでした。右の写真はテンのフンです。テンはフンを高い場所にするという習性があります。このテンのフンがあったのはベンチの上でした。またフンからはその動物の食べた物までわかることがあります。このフンをしたテンは虫を食べていることがわかります。

そして印象に残っているのは足跡です。足跡にもそ

それぞれの動物の特徴があることを知りました。例えば、キツネの足跡は上の写真のように一直線上になるのが特徴になります。また今回の自然体験学習ではクマの足跡も見ることができました。はっきりしたものは見られなかったのですが、その大きさはきつねの足跡と比べるとかなりの違いがわかりました。

印象的な植物と動物

<オオスズメバチ VS ミツバチ! ?>

横田先生のコースで山の中を歩いていると面白い場面に出会いました。それはオオスズメバチがミツバチの巣を横取りしようと戦っている場面でした。オオスズメバチ1体に対しミツバチは数体で戦っていました。途中でオオスズメバチがいなくなりましたが、それは逃げたのではなく仲間をつれてくる前兆かもしれないそうです。こういった福島のような大自然でしか見られないような光景を見られたことにとっても感動し興味を持ちました。くわしいことは次の機会にぜひ調べたいと思います。

<おもしろい植物! ?>

山の中では動物の痕跡などだけではなく、面白く、かわった植物も多く見ることが出来ました。印象に残っている植物をいくつか紹介したいと思います。1つ目はパンみtainな感触が特徴的なきのこです。見た目もパンみtainでとても面白いです。実際に触れてみたところ本当にパンの様なふわふわしてやわらかい感触がしてとても印象に残っています。右の写真がそのきのこです。



2つ目は葉の表面に実がついている植物です。ふつう実とは別々についている植物が多いのですがこの植物は葉の表側の表面にくっついていきます。かわいくてきれいな植物だと思います。ほかにもたくさんの特徴的な植物を見ることが出来ました。

<たまごだけ>

山から出たあとこんなキノコを発見しました。名前は見ての通りたまごだけです。写真を見ての通り大きく成長したものも、していないほうも、根元が卵のからが、かけたみたいになっています。とってもかわいく特徴のあるキノコでよく覚えています。



<熊の大好きな実>

山に入る前には、右の写真のような実が落ちているのをたくさん見ました。右の写真は主にクマが多く食べている身で、食べた痕跡があったり、地面に落ちていたりしました。私たちの講師の横田清美先生は、クマがこの実を本当においしそうに食べているところを見て、実際に自分で食べてみたところ、とても苦かったというエピソードを聞かせてくれました。(笑) わたしも食べているところを見たかったです。



<きれいな鳥の羽、発見!!>

山の中を歩いていると1枚のきれいな羽を見つけました。どの種類の鳥かは忘れてしまったけど見られてよかったです。また落ちていたのは1枚だけでした。何枚も落ちていたら、それはその鳥が何かの動物に襲われた可能性があるということになります。

2日目のコースでは痕跡の他にもたくさんの植物やキノコ、鳥などを見ることができました。今回見たことを次の機会にもう一度しっかりと調べてみたいです。

<クマだな発見!?!>

今回クマだなを見ることができました。クマだなとはクマの採餌痕跡のことをいいます。クマは主にどんぐりなどを食べます。その際、樹上で枝を折り、手前に手探りで寄せて食べます。その時、次々と1か所に枝が積み上げられ棚上の構造になったものをいう、と調べました。実際にクマだなを見てみると本当にそのようになっており、また折られた枝は木の上で枯れていて、クマだなができていることがすぐわかりました。またクマだなの形成時期は餌樹木によって異なります。堅果類では9月から11月頃、ミズキは7月下旬から10月頃に形成されます。たぶん私たちが見た木は堅果類だと思います。ちなみに堅果類とは果皮が非常に堅く、中に1個の種子を含む実です。どんぐりなどがその1つです。実際に見られて、新たな発見もありよかったです。

<ムササビの穴!?!>

右の写真、木に穴があいているのがわかります。ムササビの作った穴だと思われます。ムササビは夜行性のうえ、光をあてるとかくれてしまうので観察はとても難しいです。



<ヤマナメクジ>

ヤマナメクジは今回、山の中で2回ほど見ることができました。私たちの見たものでも全長10cmはこえる巨大な、ナメクジだったけど実際

はもっと大きいものもたくさんいるそうです。ヤマナメクジの特徴は体が分厚く、触角は短くとても大きいナメクジです。種類としてはかたつむりの仲間です。調べてきた特徴と実際に見たヤマナメクジはほとんど同じでした。でも実際に見るとその大きさに驚きました。

殿下の別荘、天鏡閣！！

2日目は天鏡閣に行きました。天鏡閣とは明治40年8月、有栖川宮威仁親王殿下が建てられた別邸です。室内は広く洋風で、またとても豪華な作りだったのが印象に残っています。室内の一部は展示に使われたりもしていました。天鏡閣のつくりの特徴は気品あるルネッサンス風洋風建築になっているところです。館内にはたくさんの部屋があり、私が1番印象に残っているのは客間です。とても広い空間にゆったりと並んだ机やいすがとてもきれいだと思いました。また客間にはとても豪華なシャンデリアもあります。

有栖川宮威仁親王殿下がここ福島に別邸をつくったのは、東北を旅行している際に猪苗代湖畔を巡遊され、その風光の美しさを賞され、この地に建てることを決定したそうです。

<天鏡閣の年表>

- ・明治40年8月 有栖川宮威仁親王殿下が建設決定！！
- ・明治41年8月 天鏡閣完成！
- ・明治41年9月 同御別邸を天鏡閣と命名。
- ・昭和27年12月 福島県へ下賜（与える）された。福島県は以後会議、講習会等に利用。
- ・昭和46年4月 建物の老化により使用を中止！
- ・昭和54年2月 天鏡閣本館、別館、表門が国の重要文化財に指定！
- ・昭和55年9月 修復工事スタート
- ・昭和57年9月 修復工事完成。

天鏡閣を見て感じたことは福島は豊かな自然に囲まれ、またそれだけでなく天鏡閣のような国の重要文化財になるような貴重なものもたくさんあるんだな、と思いました。天鏡閣は建てられた当時のまま、ほとんど変わらず残っています。とても印象に残るきれいな建物でした。

旧高松宮翁島別邸

2日目、天鏡閣の次に旧高松宮翁島別邸に行きました。旧高松宮翁島別邸とは高松宮宣仁親王殿下が喜久子妃殿下の母方祖母にあたる有栖川宮威仁親王妃那慰子殿下の御保養のために大正11年に建設されたものだそうです。この別邸は天鏡閣とは反対にとっても落ちつきのある和風な別邸でした。中には入れなかったけどパンフレットをいただきました。

どんな部屋があったかという“竹の間”というのが印象に残っています。竹の間は数

寄屋風造りの部屋だそうで、壁に窓をうがち、茶の湯の世界へといざなう慰子妃殿下の私室です。その他松の間、梅の間などがあり、どちらの部屋も落ち着きがありとても美しいつくりだそうです。

そしてこの別邸は、とても広い敷地にあります。造作材はひのきを主体とし、杉、赤松、けやきを使い、まさめ、くもめの貴重な銘木を多く用いています。外からしか見れませんでした。和風な建物はとても大きくて驚きました。



ちなみに左の写真はこの別邸の近くに生えている植物で毒のある植物です。横田先生の話によるとこの植物で昔殺人事件があったそうです！！自然の中にはきれいな植物や動物だけでなくこういった毒のある怖いものもあるんだなと思いました。

2日間の自然体験学習を通して

1日目をまとめるとおもに五色沼や、その周辺の生き物、植物などの説明を受けながらコースを回りました。このコースではたくさんのきれいな沼を見ることができたことが印象に残っています。また震災後の五色沼への影響など、今回この時期に行くことができたからこそ知ることができとこともたくさんありました。そういったことを踏まえて1日目の五色沼のコースで学んだことをもう一度しっかり調べ記録していきたいな、と思いました。



2日目は私が今まで調べてきた、リスの痕跡、ヤマナメクジ、クマだななど目的のものを見ることができました。例えばニホンリスの食痕。その特徴はクルミを2つに割り爪で実をとって食べます。実際にそのような跡が残っているクルミをたくさんみつけました。また日本リスはアカマツも食べます。通称エビフライと呼ばれる特徴的な食痕です。そのような食痕が調べたものと同じように山にたくさん見られました。その他にも毒のある実をうまく中だけくりぬいて食べた跡がある食痕や足跡が見られました。



今回の自然体験学習では今まで調べてきたことを完成に近づけたと同時に新たな発見、疑問、調べてみたい課題などがでてきました。特に2日目はとても充実した体験になりました。またこの日は福島の自然だけではなく、天境閣や旧高松宮翁島別邸なども見学させていただき、あらためて福島の魅力を知ることができました。